

テニユア・トラック教員 椿 俊太郎（つばき しゅんたろう）総合研究センター特任助教が JST・サイエンスパートナーシッププログラム「未来の循環型社会の構築に向けたバイオマス研究の最先端を学ぶ」にて出張講義を行いました。

小野学園女子中学・高等学校、東京農工大学および高知大学の合同で、小野学園女子中学・高等学校の中学 3 年生を対象に JST・サイエンスパートナーシッププログラム「未来の循環型社会の構築に向けたバイオマス研究の最先端を学ぶ」を平成 25 年 7 月 9 日、19 日、24 日、8 月 1 日の日程で開催しました。

本講義は海洋から陸上に至るバイオマスの利用技術やバイオマスの形成機構について、大学で取り組んでいる研究の最先端を中学生に伝えることを目的としています。私は海洋バイオマス編を担当し、事前講義において藻類バイオマスの利用技術について概説するとともに、実習講義では海藻バイオマスを形成する多糖の性質を調べる実験や、光学顕微鏡を用いた海藻の細胞の観察について指導しました。また、木質バイオマス編では東京農工大学の半智史先生が木質の形成について講義をされました。中学生を対象とした講義は初めての経験でしたが、貴重な教育技能トレーニングの機会となりました。最後になりますが、このような機会をいただきました小野学園・永井博昭先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。（報告・椿 俊太郎特任助教）

注)「サイエンス・パートナーシップ・プログラム (SPP)」とは

独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が、次世代を担う若者への理数教育の充実に関する施策の一環として実施するプログラムです。学校 (小学校、中学校、高等学校など) と大学・科学館などが連携することにより、科学技術、理科、数学に関する観察、実験、実習などの体験的・問題解決的な学習活動を実施する際の経費支援などが行われます。



事前講義の様子 (H25 年 7 月 9 日)
小野学園女子中学・高等学校において



実習講義後の記念撮影 (H25 年 7 月 24 日) 東京農工大学において